

学校関係者評価 報告書

～平成29年度～

学校法人 日本航空学園

(専) 日本航空大学校

1 学校関係者評価委員会の目的

学校関係者評価委員会は、日本航空大学校（以下「本校」と略す）の運営状況（教育理念・目標、教育活動の現状や課題、経営状況、社会貢献など）について学校関係者より意見を聞き、その評価に基づき学校運営の組織的、継続的な改善に取り組むことを目的とする。

2 学校関係者評価委員会委員名簿

規定第2条（構成）	所属	名前（敬称略）
専門分野における業界関係者	株式会社第一システムエンジニアリング 企画管理室 課長	宮本 武志
専門分野における業界関係者	石川県工業試験場 博士（工学） 企画指導部 副部長	前川 満良
保護者	株式会社まちづくり輪島 専務取締役 学校法人日本航空学園 雄飛会輪島会長	九内 一也
地域の公共団体の関係者	能登空港 ターミナルビル株式会社 代表取締役専務	中本 利光
地方の公共団体等の関係者	輪島市 企画部長	大西 正浩

3 学校関係者評価委員会

日 時：平成 30 年 9 月 7 日（金）16：00～16：30

場 所：日本航空大学校 2 階 応接室

出席者：学校関係者評価委員会委員、及び本校事務局側教職員

4 評価対象期間

平成 29 年 4 月 1 日から平成 30 年 3 月 31 日まで

5 学校関係者評価委員会次第

(1) 開会

(2) 日本航空大学校学長 浅川 正人挨拶

学長の浅川より、職業実践専門課程の認定を受けたことを踏まえ、認定後も本校で実施している自己評価、及び学校関係者委員会での評価（外部評価）を踏まえた改革を推し進め、専門職大学設立へ向けて動いていきたいこと、そのために昨年に引き続き、各委員に対し各々の視点から評価をいただきたい旨の話があった。

(3) 学校関係者評価委員紹介

委員各自の紹介の後、中本利光氏が委員会の取りまとめ・進行役に推薦され、以降は式次第に基づきながら中本氏が進行した。

(4) 資料確認

評価委員会次第、委員名簿、「平成 29 年度 日本航空大学校 自己評価・自己点検集計表」、「学校関係者評価フォーム」、及び評価の各項目における必要な補助資料について確認がなされた。

(5) 議題

第 1 号議案 学科説明（教育活動報告）について

日本航空大学校 松尾より、今年度航空工学科の産学協同教育の状況、学科の目標設定と実績管理、及び指導計画表とカリキュラムについて説明がなされた。また、インターンシップの実施状況、進路実績、企業研修の状況や、地域活動の実績について報告がなされた。

また、委員の宮本様より産学協同教育実施計画書の状況説明がなされ、学生の就職次期の早期化に対応するためスケジュールを前倒しして実施したことや、学生の理解度についてなどの説明がなされた。

第2号議案 「平成29年度 自己評価報告書」説明及び評価について

学校関係者評価委員による評価は、平成29年度自己評価の項目ごとに事務局から説明を行い、各委員から評価・意見をいただいた（詳細別途）

第3号議案 その他

「平成29年度 自己評価報告書」説明及び評価

学校関係者評価委員会における評価

評価は、4～1の点数で記載します。

4：適切 3：ほぼ適切 2：やや不適切 1：不適切

（評価点数は委員の平均値を掲載）

✦ 1 教育理念・目標

評価 3.9.

【評価・意見、学校側の改善項目】

- ・ 理念・目的・育成人材像は定められているか
→ 航空工学科の教育は確立されているが、新しい学科は将来性不明確
- ・ 各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか
→ （HPを見ても正直関心が湧かないので動画等を駆使したHPの改善を、という意見より）。30年度に入りHPの更新を行った。またドローンパイロットスクールについても新規ページを作成し、リンクを貼ったのでリニューアルされたと考える
- ・ 理念・目標・育成人材像は定められているか（専門分野の特性が明確になっているか）
→ 目標等共通認識を持つための定期会議を（ただし会議ありきにならないように）

✧ 2 学校運営

評価 3.9

【評価・意見、学校側の改善項目】

- ・ 運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか
 - 上部組織と下部組織の報告・連絡・相談が確立されないことにより、業務、教育活動へ支障が出る。報告・連絡・相談が徹底できる環境を整えることが重要
 - 行事日程、詳細決定が遅いように感じるという意見があるので、毎年、1月末頃には提示できるようにしていきたい
- ・ 人事、給与に関する制度は整備されているか
 - (現在の給与体系(年齢給)から能力給に変更したほうがよい等の意見を受け)、100%満足は無理だが、公平・客観的に説明できるシステムを望む
 - 外部業者を入れて評価制度を導入できるよう検討中です
- ・ 教務・財務等の組織整備など意識決定システムは整備されているか
 - 適切に対応できている(企業とは異なり、先生は若い時から学校にいないため年齢と経験が合わないケースが多くあると思うので、先生たちとのヒアリング又は組織化を強化したらいかがでしょうか?)

✧ 3 教育活動

評価 3.9

【評価・意見、学校側の改善項目】

- ・ 成績評価・単位認定の基準は明確になっているか
 - 教員間での情報を共有し、評価基準の統一を図る
- ・ 人材育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか
 - 適切に対応できている(先生方のレベルアップ活動として、例えば年2回**万円を上限に研修を受けることを義務付けるとか、テレビ会議やWEB上の研修も取り入れてはどうか)
 - 教員不足(学生数が増え、教員数が不足。一人あたりの業務量増加)に関して。教員の人材不足と若返りは難しいだろうが、人の確保と、また多忙にも関わらずスキルアップを望む教員への対応を検討してください
 - 先生方の能力開発研修の要望について学校側として、どの程度まで実現できるのか。職業実践専門課程の申請時より資格取得を果たしているが、教員からは最新の航空技術の習得や機体に関する知識がまだまだ乏しいという前向きな意見が出ており、学校としてもこうした要望を進めて参りたい。
 - 聞かれた(問われた)時しか声を上げない職員に問題はあるが、言いやすい職場環境を作るのも責務の一つである

✧ 4 学修成果

評価 3.8

【評価・意見、学校側の改善項目】

- ・ 学修成果について
 - （自己評価全体を通して）問題提起者が比較的多いが、今後の目標の一つとして捉えたらよいのではないか
- ・ 就職率の向上について
 - 他の学校で企業からの訪問の話は聞かない。この学校が群を抜いていると思う

✧ 5 学生支援

評価 3.9

【評価・意見、学校側の改善項目】

- ・ 卒業生への支援体制について
 - 世間一般でみると卒業生への支援体制を行っている学校があるのか？ 卒業後の退職に対する支援（再就職支援）は必要である。ただ、現実問題として卒業生のケアまでするというのは、教員への負担が大きいのではないか
 - 愛校心を持ち、将来OB・OGとして協力してもらわなければならないが、どこまでフォローが必要かは疑問。卒業生からどのような声が上がっているのか
 - 同窓会的組織である航友会が卒業生の情報を得て、再就職を進める役割を果たしている。学校と航友会の密な連携がより効果的な支援体制となるよう今後も関係をしっかりともっていきたい。
- ・ 学生相談に関する体制整備について、教員の学生対応がまちまちという意見があるが、教員間で話し合いはあるか
 - 各学科では教員間の話し合いを行い、年一回教員研修にて場を設けている
- ・ 学修支援として、内定学生への課題を要求してもよいのではないか
 - 4年制課程の学生は卒業研究がある。2年制課程の学生は内定後モチベーションが下がりやすいので、検討する
- ・ 学生支援全般について
 - 他の大学の平均的な学生支援と比較すると手厚く行われている。しかし、これが組織的なものか、教育的なものか？ 教育的なウェイトが大きいならば、人が変わっても大丈夫な組織作りを早急に整えて欲しい

【評価・意見、学校側の改善項目】

- ・ 施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか
 - クラブ活動以外の余暇としてテニス、バスケットボール、ソフトボール等活動できる環境も充実して欲しい
 - 学生が増え施設の的に十分でないというのはやむを得ないが、今後工夫又は整備検討を
 - この状況を少しでも緩和させることが大切である。外部施設を使つての講義という案はいいと思う。 空港会議室やラベンダーホールなど、検討してください。能登空港ターミナルビルの会議室は 200 人収容可能なので、卒業研究発表も可能
 - 教育教材の導入について、単価や目的など制限がたくさんあるが、外国人を迎えるにあつての補助金など、まだ狙えるようなものがありそう。航空学園が交流人口を拡大することは地域にとつても意味があることであり、いろんな補助金の引っぱり方を検討してはどうか。

【評価・意見、学校側の改善項目】

- ・ 学生募集活動は、適正に行われているか
 - 学生が増加を続けているというのは、「この学校で良かった」という実感があるからではないか。ロコミ入学、兄弟姉妹の入学、親子二世代だけでなく最近は三世代入学も出ている。航空教育をしっかりと続けていけば、教育の成果がたくさん伝わっていくだろう
- ・ 学生募集について、ビジネス科が定員 40 名に対し、100 名近く採用して取っていますが、問題ないか
 - 航空業界の人手不足を解消するには 100 名でも足りていないので、受け入れ人数は増やしたい。とはいえ定員超過の状態について、今後定員増加により解消できるよう検討します

✦ 8 財務

評価 3.9

【評価・意見、学校側の改善項目】

- ・ 中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか
 - 詳細は不明だが収支の数字的には順調。今のうちに計画をもって不動産等の取得（施設整備）や財務基盤の更なる充実を望む
- ・ 予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか
 - 学科の支出やゼミ費など予算支出が場当たりのみならず得ない状況にあるという意見もあったが、今年度（30年度）6月より年度当初に遡及して部門別管理予算制度を開始することで、各管理単位で予算、収支をみれるようになった

✦ 9 法令等の遵守

評価 3.9

【評価・意見、学校側の改善項目】

- ・ 法令等遵守について
 - 問題はないと思われるが、個人情報保護に注意を
- ・ 情報保護に関し、その保護のための対策がとられているか
 - 生徒等の成績を含めた情報保護対策があるか？（悪気なく情報を持ち出す教員が他の学校であるので）

✦ 10 社会貢献・地域貢献

評価 3.9

【評価・意見、学校側の改善項目】

- ・ 社会貢献・地域貢献を行っているか
 - いろいろやっていると思っている。もっとPRしても良いのでは
 - 全学生が参加できる定期的かつ適切なボランティア活動がないなどの意見があり、ボランティア活動の拡大を図りたい
 - 学科としては、科目「地域交流」を立ち上げて地域社会への関心を持たせるように努めたものの、学生・教員の活動レベルが不十分、学友会が活動の主体となり、今まで以上に地域貢献に力を入れていくとよいのでは、という意見があがっている

- ・ 受け入れ・派遣、在籍管理において適切な手続き等がとられているか
 - 問題ないと考える。日本の企業が留学生を人材として強く望むようになってきたが、留学生の対応を高校の国際部が担ってきたという経緯より、体制不備を指摘する職員が比較的多い。互いに理解し協力していただけたらどうか。国際部任せではなく。
 - 問題なく適切に対応できている（海外の休日・旧盆等を配慮してもいいのではと思うが、今の活動でも十分対応できていると思う）
- ・ 学習成果が国内外で評価される取組を行っているか
 - 併設高校出身の留学生の日本語レベルについては、授業についていけるよう教育を進めてください